# 現　代　文　Ｂ　学　習　指　導　案

岡山県立津山高等学校２年１組　　指導者　加戸小百合

２０１９年9月２５日（水）２限、２６日（木）２限、１０月２日（水）２限、３日（木）２限、９日（水）２限

| | |
|---|---|
| 単元名 | 資料を根拠に新国立競技場について語る―隈研吾と福岡伸一の立場で― |
| 学習材 | 『存在としての建築』隈研吾【評論Ｘ】、『動的平衡』福岡伸一【評論Ｙ】（第一学習社『高等学校改訂版現代文Ｂ』）、新国立競技場に関する広報資料「新国立競技場整備事業～もっと知っていただくために～」（独立行政法人日本スポーツ振興センターホームページ掲載資料から授業者が抜粋したもの）【資料Ｚ】 |
| 目標 | ○新国立競技場について、設計した隈研吾や分子生物学者の福岡伸一の立場や考え方を踏まえて分析することで、内容の解釈を深めることができる。〔読む能力〕<br>○一つの具体例について複数の立場に立って考え、議論しようとしている。〔関心・意欲・態度〕<br>《新しい学習指導要領「論理国語」の指導事項（育成する資質・能力）との関連》<br>・〔知識及び技能〕の（２）情報の扱い方に関する事項、「情報と情報との関係」ア「主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めること。」、「情報の整理」ウ「推論の仕方について理解を深め使うこと。」<br>・〔思考力，判断力，表現力等〕の「B 読むこと」の（１）オ「関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めること。」、カ「人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めること。」<br>・〔学びに向かう力、人間性等〕「言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。」 |
| 指導上の立場 | **○生徒観**<br>前単元では、教科書掲載の清岡卓行の評論文について、教科書編集者の立場でふさわしい題名を考える学習に取り組んでいる。生徒は、学習を通して、題名に着目して読むことの意味について実感することができているものと思われる。一方で、常に筆者の主張の内容を読み取ることだけに注力する生徒が多いという現実からは脱し切れていない。具体と抽象を結び付けて説明したり、筆者がその具体例を用いた意図を推論したりすることには課題がある。また、正確な読解を目的とした読解問題に解答することに慣れ、それを現代文の学習だととらえている生徒たちは、立場や目的に応じて自分の考えを表現するために読解したことを情報として活用することには少し不慣れな様子を見せていた。生徒がこのような学習に対して主体的に取り組み、目標を達成していけるよう、発問や学習活動を工夫する必要がある。<br>**○題材（単元）観**<br>「存在としての建築」は、新国立競技場を設計した建築家、隈研吾の書いた評論文である。隈研吾は、題名にある「存在としての建築」の内実について、本文中で、二十世紀に普及したコンクリートの建築を否定し、これからの時代に求められる建築とは、場所に根を生やし場所と接続される建築であると説明している。ここで着目したいのは、その「存在としての建築」の具体については、教科書採録部分に事例が挙げられていないということである。もう一つの学習材である「動的平衡」は、分子生物学者である福岡伸一が、狭義の「科学」の根幹を成してきたデカルトの機械論的生命観を批判し、可変的かつ永続的なシステムとしての新たな生命観について述べた評論文である。福岡伸一は、『動的平衡ダイアローグ』（2014 年、木楽舎）において、「動的平衡は生命観であるとともに、世界観でもある。動的平衡によって生命を再解釈することは、世界を再定義することでもある。」と述べ、このコンセプトに賛同した様々な分野の専門家と動的平衡の視点から対談している。その対談の相手の一人が、建築家の隈研吾である。このような二つの学習材の特徴を踏まえ、今回の単元では、①新国立競技場は、隈研吾の考える「存在としての建築」を具現化した建築と言えるか、②「動的平衡」の考え方を持つ福岡伸一なら、自分の主張を述べるときに、新国立競技場を具体例としてどう用いるだろうか、という二点を大きな課題（発問）として設定した。このことについて意見を述べるためには、二つの学習材を読解して得た情報をいかに活用できるかが鍵となる。また、この課題に取り組むことは、これからの社会のあり方や自己の生き方について、新たな観点から考察を深めることにもつながるものと考えられる。<br>**○本単元で工夫する点や手立て**<br>一つ目は、単元全体の大きな課題（発問）を、正確な本文理解のための読解の問いではなく、生徒自身の判断に基づく批評を求める問いにしていることである（上記「題材観」の①②）。この課題設定に |

<table>
<tr><td></td><td colspan="2">よって、生徒一人ひとりに考え表現する責任、他者と議論する意味（＝他の学習者の言葉に出会い批評し合う意味）が生じるため、グループ活動が有効に働き、生徒が主体的な読み手となって目標を達成していくことができるものと考えている。二つ目は、その大きな課題（発問）は、建築家と分子生物学者という専門分野の異なる二人の書き手の文章、そして新国立競技場に関する資料（図を含む）を関連づけながら活用することを求めるものであるということである。おそらく多くの生徒が全く別物の文章として読むであろう二人の書き手の文章を一つの単元で扱うことで、全く違うジャンルのように思われる文章でも見方によっては同じ方向性が見えてくるという気づきが生徒の中に生まれることを期待している。同時に、自分が出会った情報をどう活用するかということを考え、具体と抽象を結び付けながら読む力を身につけさせることも意図している。<br>**○ＶＧＲ育成の視点との関連**<br>ＶＧＲは、生徒を学ぶ主体にすることに主眼を置いた資質・能力だと私はとらえている。次期学習指導要領の資質・能力の三つの柱でいうところの「学びに向かう力・人間性」（とくに「主体的に学習に取り組む態度」（粘り強さ、自己調整力））と重なるところが大きい。次期学習指導要領でも、「学びに向かう力・人間性」は「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力等」の育成を支えるものとあるように、知識・技能やそれを活用できる思考力・判断力・表現力等を身に付けなければＶＧＲを発揮できないわけではなく、ＶＧＲを発揮する場を発問によって設定することによって、思考力・判断力・表現力等を使う方向に向かい、そのために必要な知識・技能を得ようとするのではないか、と仮定し、授業づくりを進めている。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">指導と<br>評価の<br>計　画<br>全５時間</td><td>主な学習活動</td><td>具体的な評価規準（◇）と評価方法</td></tr>
<tr><td>第一次<br>隈研吾の立場に立って評論Ｘに具体例を付け加えることでわかりやすい文章を書く活動を行う。<br>【第１時】新国立競技場の二つの図案（ザハ案と隈案）のどちらが「存在としての建築」という語感に合うかを判断する。評論Ｘを読み、隈研吾の言う「存在としての建築」とは何かを整理する。<br>【第２時】評論Ｘと資料Ｚをもとにジグソー活動を行い、課題①《新国立競技場は「存在としての建築」の考え方を具現化したものであると言えるか》について考察する。<br>【第３時】ジグソー学習において、新国立競技場は「存在としての建築」の考え方を具現化したものとは言えないと判断した人の意見を全員で検討し、課題①についての考えを記述する。<br>第二次<br>福岡伸一の立場に立って評論Ｙに具体例を付け加えることで説得力のある文章を書く活動を行う。<br>【第１時】評論Ｙを次に読む理由を題名から予想した上で本文を読み、予想の当否を分析する。<br>【第２時】評論Ｙから福岡伸一の考え方を整理し、課題②《福岡伸一さんなら自分の主張を述べるときに、新国立競技場を具体例としてどう用いるだろうか》についての考えを記述する。<br>評価問題<br>（ｉ）「原爆ドーム」は「存在としての建築」と言えるか否かを、評論Ｘと資料Ａ（「原爆ドーム」（広島市）のホームページ掲載資料を授業者が再構成したもの）から判断し、その理由を説明する問題。<br>（ⅱ）「動的平衡」の考え方を適用できる具体例を一つ挙げ、その理由を説明する問題。</td><td>◇新国立競技場について、設計した隈研吾や分子生物学者の福岡伸一の立場や考え方を踏まえて分析することで、内容の解釈を深めることができているか。〔読む能力〕<br>〈行動の観察〉〈プリントの提出による記述の確認〉〈定期考査〉<br><br>◇一つの具体例について複数の立場に立って考え、議論しようとしているか。〔関心・意欲・態度〕〈行動の観察〉〈プリントの提出による記述の確認〉</td></tr>
</table>

| 本　時　案（第１時） | | |
|---|---|---|
| 目標 | ○隈研吾の言う「存在としての建築」とは何かということに疑問を持ち、本文を基に考えようとしている。〔関心・意欲・態度〕 | |
| **学習活動** | **指導・支援上の配慮事項など** | **評価規準・方法など** |
| ０　前単元のまとめ、振り返りを行う。 | ○前単元のまとめと振り返りを各自で記述したプリント（宿題）を回収する。題名に着目することの意味や面白さについて振り返ったところで、本単元でもまずは文章の題名に着目してみようと伝える。 | |
| １　（「存在としての建築」の文章を読む前に）新国立競技場の二つのイメージ図を見て、どちらが「存在としての建築」という言葉のイメージに合うかを判断する。（個人で判断→隣近所の人と意見交換。） | ○授業プリント其の一を配付する。イメージ図についてはプリントでは見えにくいため、スクリーンに映して示す。これから読む隈研吾さんの文章の題名「存在としての建築」に着目し、「存在としての建築」とはどんな建築なのかを予想させる。<br>《予想される生徒の発言》<br>・Ａの方が存在感のある建築だと感じられる。 | 本文を読む前に、「存在としての建築」という題名に着目し、具体的な建築物のイメージ図と結びつけて、「存在としての建築」の意味するところを予想させることによって、本文を読んでいく見通しを持つことができる。（Ｖ） |
| ２　本時の目標を確認する。 | ○「存在としての」とはどういうことかについて生徒に疑問を持たせたところで、本時の目標を提示する。 | |
| 隈研吾さんの言う「存在としての建築」とは何かを考えよう。 | | |
| ３　隈研吾さんの言う「存在としての建築」とは何かを考えながら、本文を読む。（ペアで音読。） | ○問いを意識しながら（本文に印をつけたりしながら）読むよう促す。<br>○プリントに整理するにあたっては、箇条書きやキーワードの抜き出しでも構わないと伝え、初読の段階での気づきを表出することを大事にさせる。 | |
| ４　隈研吾さんの言う「存在としての建築」とは何かということについて、文章からわかることをプリントに整理する。（個人で記述→隣近所で意見交換→全体で共有。） | 《予想される生徒の発言》<br>建築家である筆者が目指す建築のあり方。／コンクリートの建築ではない建築。／存在する場所と幸福な関係を結んでいる自然な建築。／場所に根を生やし、場所と接続される建築。／どう見えるかではなくどう作るかを考えた建築。／木造の建築。<br>○先のイメージ図のＢが隈研吾さんの設計であることを確認する。<br>○「存在としての建築」について理解するためのキーワードとなる本文の記述のすべてに気づかせようと誘導するのではなく、ここでは、「～ではない」という説明や抽象的な説明はあるものの事例を挙げての具体的な説明がないことに気づかせることを大事にして、次時の学習活動につなげる。 | 「存在としての建築」とは何かということについて本文に書かれていることを生徒自身が整理する活動を通して、具体的な事例が挙げられていないことによるわからなさに気づくことができる。本文で述べられている主張（抽象）を事例（具体）に結びつけて考えていく必要性を実感ができる。＝「情報と情報との関係」への気づきを促すことになる。<br>◇隈研吾の言う「存在としての建築」とは何かということに疑問を持ち、本文を基に考えようとしているか。〔関心・意欲・態度〕〈行動の観察〉 |
| ５　次時の学習活動についての説明を聞き、学びの見通しを持つ。 | | |

| 本　時　案（第２時） | | |
|---|---|---|
| 目標 | ○新国立競技場について、設計した隈研吾の立場や考え方を踏まえて分析することで、内容の解釈を深めることができる。〔読む能力〕<br>○担当する資料を基に自分が考えたことや他の資料を担当する者の意見を統合、整理し、問いに対する自分たちなりの考えをまとめようとしている。〔関心・意欲・態度〕 | |
| **学習活動** | **指導・支援上の配慮事項など** | **評価規準・方法など** |
| １　本時の目標と学習活動の流れについて確認し、学びの見通しを持つ。 | ○本時の問い「隈研吾さんの設計した新国立競技場は、「存在としての建築」の考え方を具現化したものであると言えるか。言えるとすればそれはなぜか。資料を基に分析、考察せよ。」について、グループ活動（ジグソー法）によって取り組むことを説明する。 | この課題（発問）に答えるためには、文章の筆者である隈研吾の抽象的な言葉と実際の具体的な建造物に関する資料の情報とを結び付けていくというように、「情報と情報との関係」「情報の整理」を意識して取り組むことが必要となる。 |
| 隈研吾さんの言う「存在としての建築」とは何かを考えよう。 | | |
| ２　ホームグループで資料の担当を決める。自分の担当する資料と教科書の文章（隈研吾「存在としての建築」）を基に、問いについて個人で考え記述する。<br><br>３　同じ資料を持っている人で４人グループ（エキスパートグループ）を作り、個人で考えたことを共有し、深める。<br><br>４　ホームグループに戻り、エキスパートグループで話し合ったことを説明し合う。<br><br>５　問いに対するホームグループとしての意見をまとめる。（他グループへのプレゼン資料を作成する。）<br><br>６　ホームグループ同士で発表し合う。<br><br>７　次時の学習の予告を聞く。グループで作成したプレゼン資料を提出する。 | ○４人のホームグループで、新国立競技場に関する資料（ア）～（エ）の分担を決めるよう指示し、各資料を配付する。<br>○文章と資料を根拠にして問いに対する自分の考えが説明できるよう、各自が落ち着いてしっかりと考える時間を確保する。<br>○エキスパートグループでは、後でホームグループの人に説明することを意識し、各自が自分の書いたことを言い合うだけで終わるのではなく、お互いの意見に質問や付け足しをしあいながらエキスパートグループとしての考えをまとめるよう促す。<br>○議論が停滞しているエキスパートグループがあれば、適宜助言をする。<br>○ホームグループでは、資料を持っていない（読んでいない）相手に理解してもらえるようわかりやすい説明を工夫するよう伝える。<br>○各自が持ち寄ったことをただ並べ立ててまとめとするのではなく、それらを統合、整理し、自分たちなりにまとめ方を工夫するよう指示する。（紙とペンを各グループに配付。）<br>○クラス全体で全グループが順番に発表するのではなく、隣り合うグループ同士で発表し合うことで、質疑応答等をしやすくする。<br>○他のグループの発表を聞いて気づいたことや疑問に思ったことは各自プリントにメモしておくよう伝える。<br>○提出させた資料は、生徒の思考の深まりを確認し、次時の冒頭に行うクラス全体でのクロストークの論点を見極める材料とする。 | 生徒自身の判断に基づく批評を求める課題（発問）と、ジグソー法によるグループ活動を行うことで、生徒一人ひとりが見通しを持って達成のために粘り強く取り組む力（Ｇ）を育成することが可能になる。<br><br>◇新国立競技場について、設計した隈研吾の立場や考え方を踏まえて分析することで、内容の解釈を深めることができているか。〔読む能力〕〈行動の観察〉〈グループでの作成資料の提出による記述の確認〉<br>◇担当する資料を基に自分が考えたことや他の資料を担当する者の意見を統合、整理し、問いに対する自分たちなりの考えをまとめようとしているか。〔関心・意欲・態度〕〈行動の観察〉〈グループでの作成資料の提出による記述の確認〉 |

| 本　時　案（第３時） | | |
|---|---|---|
| 目標 | ○新国立競技場について、設計した隈研吾の立場や考え方を踏まえて分析することで、内容の解釈を深めることができる。〔読む能力〕<br>○教科書本文と資料を基に、自分の考えを再検討してまとめようとしている。〔関心・意欲・態度〕 | |
| **学習活動** | **指導・支援上の配慮事項など** | **評価規準・方法など** |
| １　本時の目標と学習活動の流れについて確認し、学びの見通しを持つ。 | ○前時の授業プリントや教科書本文、資料を見て、前時に自分のグループが考えていたことを個人で思い出す時間、ペアで説明し合う時間をとり、授業に向かう姿勢を作らせる。<br>○当初の予定を変更し、前時のグループ活動で出た意見を検討することで、考えを深めていくことを伝え、補充プリントを配付する。 | 第一印象で「具現化したものであると言える」と判断した生徒が、その第一印象を根拠のある確かな考えにしていくために、刺激となる意見（反対意見）を取り上げ検討する展開をとる。これによって生徒の探究心（Ｒ）を育成したい。 |
| 隈研吾さんの言う「存在としての建築」とは何かを考えよう。 | | |
| ２　新国立競技場は「存在としての建築」としての考え方を具現化したものとは言えないと判断した人の意見※１について検討する。<br>（１）意見※１を述べた人が教科書本文のどこを根拠にしているのかを推測する。<br>（２）本当に「矛盾している」と言っていいのかということについて、教科書本文と資料（ア）を基に検討する。<br><br>３　前時と本時の学習を踏まえ、「新国立競技場は『存在としての建築』の考え方を具現化したものであると言えるか。それはなぜか。」という問いに対する自分の考えを記述する。<br><br>４　「動的平衡」という題名から、次に読むのが評論文「動的平衡」（福岡伸一）である理由を予想する。<br><br>５　授業プリント２を提出し、次時の予告を聞く。 | 《全体で検討する意見》※１<br>新国立競技場の資料に「景観との調和」、「日本らしさ」とあるのは、表象ではなく存在として建築をとらえる筆者の主張に矛盾しているのではないか。<br>○自分とは異なる意見をすぐに否定するのでなく、その人がなぜそう考えたのかを読み解くよう促す。まずは教科書本文から根拠を押さえさせる。<br>○資料（ア）を全員に配付する。<br>○「筆者は、景観に調和することを目的とした建築を否定しているのであって、結果として景観に調和したり日本らしくなったりすることを否定してはいないため、矛盾していない。」といった意見が生徒から出てくることを期待する。<br>○生徒から意見が出にくいようであれば、資料（ウ）から、見た目ではなく目的を意識していると分析した人がいたことなどを伝える。<br>○筆者が一般的に使われる意味とは異なる意味で使っている言葉があることや、教科書本文と資料では書き手と読み手が異なっていることについて補足的に説明する。<br>○資料（イ）・（ウ）・（エ）も配付し、個人で記述する時間を少しとる。単語や箇条書きではなく、文章にするよう伝える。続きは次時までの宿題にする。<br>○本文はまだ読まない状態で、「動的平衡」という題名から予想したことを、配付したプリント２に記述させる。 | 書き手がどのような意味でその言葉を用いているか、誰が誰に何を伝えようとしている言葉のかということを見極めて情報として適切に扱う力、資料によってそれが異なる場合にいかに情報として結び付けていくかを判断できる力を育成したい。<br><br>◇新国立競技場について、設計した隈研吾の立場や考え方を踏まえて分析することで、内容の解釈を深めることができているか。〔読む能力〕〈行動の観察〉〈プリントの提出による記述の確認〉<br>◇教科書本文と資料を基に、自分の考えを再検討してまとめようとしているか。〔関心・意欲・態度〕〈行動の観察〉〈プリントの提出による記述の確認〉 |

| 本　時　案（第４時） | | |
|---|---|---|
| 目標 | ○「存在としての建築」と「動的平衡」という二つの評論文の関係性を分析することができる。〔読む能力〕<br>○分子生物学者の福岡伸一の立場に立って新国立競技場を具体例とした文章を自分で書こうとしている。〔関心・意欲・態度〕 | |
| **学習活動** | **指導・支援上の配慮事項など** | **評価規準・方法など** |
| １　前時の学習を思い出し、次に読む文章が評論文「動的平衡」（福岡伸一）である理由について題名だけを見て予想する。授業プリント２の問一に記述する。（前時の続き） | ○宿題にしていた授業プリント１（補充）を回収し、前時の学習について少し補足する。<br>○「動的平衡」の予想について前時に十分に考える時間をとれなかったため、ここで２分ほど時間をとって書かせる。数名を指名し予想を述べさせる。<br>《生徒の予想の観点として推測されるもの》<br>建築という話題の共通性／「動的平衡」という言葉の意味の予想／「存在としての建築」で述べられていたこととの関連性（共通点・相違点）／どちらの文章も題名が筆者の主張のキーワードとなっていること | |
| 「動的平衡」の本文を読み、予想の当否を分析しよう。 | | |
| ２　「動的平衡」の本文を黙読し、自分の予想の当否を分析して、授業プリント２の問二に記述する。 | ○「建築の話ではなかったから予想は外れた」というレベルでは分析になっていないことを確認する。分析として書くべきことを板書し、全体で共有する。<br>予想したことと読んで考えたことを比べて気づくことは何か。<br>→・「動的平衡」の文章では、何について、何を根拠に、どのような意見が述べられているか。<br>・「存在としての建築」で述べられていたことどういう点で関連付けられるか。 | ◇「存在としての建築」と「動的平衡」という二つの評論文の関係性を分析することができているか。〔読む能力〕〈行動の観察〉〈プリントの提出による記述の確認〉 |
| ４　「福岡伸一さんなら、新国立競技場を具体例として、どのように意見を述べるだろうか。福岡伸一さんの立場に立って意見を書いてみよう」という課題（授業プリント３の問一）に取り組む。<br>５　授業プリント３枚（プリン１の補充・２・３）を提出する。 | ○題名でもある「動的平衡」という概念を理解しようとする中で、「存在としての建築」の考え方と「動的平衡」の考え方との共通性に気づく生徒がいることを期待する。生徒の記述中の机間指導により、良い気づきをしている生徒を見つけ、全体で発表させる。<br>○授業の冒頭で回収していた授業プリント２を一度返却し、授業プリント３の問一に取り組ませる。「具体例として」「福岡伸一さんの立場に立って」というのがポイントであることを確認する。存在としての建築たり得ているかという視点で分析した新国立競技場という具体例を、福岡伸一さんなら、自分の主張とどう結びつけて文章を書くだろうかを推測して書かせる。 | ◇分子生物学者の福岡伸一の立場に立って新国立競技場を具体例とした文章を自分で書こうとしているか。〔関心・意欲・態度〕〈行動の観察〉〈プリントの提出による記述の確認〉 |

| 本　時　案（第５時） | |
|---|---|
| 目標 | ○新国立競技場について、設計した隈研吾や分子生物学者の福岡伸一の立場や考え方を踏まえて分析することで、内容の解釈を深めることができる。〔読む能力〕<br>○福岡伸一の立場から新国立競技場を具体例とした文章を自分で書こうとしている。〔関心・意欲・態度〕 |

| 学習活動 | 指導・支援上の配慮事項など | 評価規準・方法など |
|---|---|---|
| １　本時の目標と学習活動について知り、学びの見通しを持つ。 | ○前時に回収していた授業プリントを返却し多くの生徒の記述から自分でしっかり考えようとする姿勢が見られたことを伝える。<br>○授業プリント３を配付し、次のことを説明する。<br>本時の問い＝単元のまとめの課題<br>「福岡伸一さんなら、新国立競技場を具体例として、どのように意見を述べるだろうか。福岡伸一さんの立場に立って意見を書いてみよう。」<br>→「福岡伸一さんの立場に立つ」ということは、福岡さんがどんな考え方の持ち主なのかを理解する必要がある。また、具体例とする新国立競技場は隈さんが設計したものだから、隈さんの考え方と福岡さんの考え方の関連を分析できている必要がある。<br>→これまでの授業でみんなが考えてきたことがこれを書くための材料になる。 | 新しい学習指導要領「論理国語」の指導事項のうち、〔思考力，判断力，表現力等〕の「B 読むこと」の（１）オ「関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めること。」、カ「人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めること。」を特に意識した課題。 |

これまでの学びを踏まえ、福岡伸一さんの立場で新国立競技場を具体例とした意見文を書こう。

| | | |
|---|---|---|
| ２　前時に考えたこと（授業プリント２の問二「『動的平衡』の本文を読み、予想の当否を分析せよ。」に対する記述）をクラス全体で共有する。<br><br>３　第２・３時で「新国立競技場は『存在としての建築』の具現化と言えるか」という問いに対して考えたことを振り返る。 | ○プリント２で前時に考えたことがこの課題を書くための材料の一つになることを伝え、プリント２の記述について複数名の生徒に発表させる。（「動的平衡」に何がどう書かれているかという観点、「存在としての建築」に書かれていたこととの関連性の観点で、記述内容をもとに指名する生徒、順番を決めておく。）<br>○他生徒の発表を聞きながら、自分のプリントにメモ（自分の記述への付け足しや修正）をとるよう指示する。<br>○ペアでメモしたことを確認させる。<br>○「新国立競技場は『存在としての建築』の具現化と言えるか」という問いについて、教科書本文と新国立競技場の資料を基にみんなで考えたことが二つ目の材料となることを伝える。「新国立競技場を具体例として」書くことが求められているため、当然、新国立競技場の資料ア～エが必要であること、授業プリント１・１の補充に自分が書いたことも参考になることを確認する。 | 本時の問いは、多くの生徒にとって難易度の高いものであるが、これまでの授業での学びをつなげて考えることが糸口になる問いであること、他の生徒と意見を共有することで自分の考えを充実したものにしていくことによって、粘り強くやり抜く力（G）を育成したい。 |

※裏面へ続く

| | | |
|---|---|---|
| ４　「福岡伸一さんなら、新国立競技場を具体例として、どのように意見を述べるだろうか。福岡伸一さんの立場に立って意見を書いてみよう」という問いに対する自分の考えを授業プリント３に記述する。 | ○福岡さんは隈さんと対談したことがあり、隈さんの「存在としての建築」の考え方については知っていることを補足する。<br>○まずは生徒個人で落ち着いて考え記述する時間と環境をつくる。<br>○考えあぐねている生徒には、個別にアドバイスをする。<br>・福岡さんの考え方と隈さんの考え方に共通性があるとしたら、福岡さんは新国立競技場に対して肯定的な見方をするはず。<br>・新国立競技場のどんな点について肯定的な見方をするか具体的に考えてみよう。<br>・「動的平衡」の考え方を説得力のあるものにするために、「動的平衡」の視点で見た新国立競技場の分析を具体例として挙げて書いていこう。 | ◇福岡伸一の立場から新国立競技場を具体例とした文章を自分で書こうとしているか。〔関心・意欲・態度〕〈行動の観察〉〈プリントの提出による記述の確認〉 |
| ５　授業プリント３に記述したことをクラスメイトと読み合う。 | ○生徒が他の生徒の記述を読むことによって気づきを得て、自分の記述に生かせるようにしたい。他の生徒の記述について、自分の記述を補強する材料になるもの、自分とは違う視点で考えていて参考になるもの、もう少し掘り下げて考えてみると面白そうな考え方などをメモしておくよう伝える。 | |
| ６　クラスメイトの記述を参考にして自分の記述を見直し修正や付け足しをする。<br>７　単元の振り返りを記述しプリント３を提出する。 | ○『動的平衡ダイアローグ』（福岡伸一、木楽舎、2014）から抜粋したプリントを参考資料として配付する。<br>○「二つの単元を終えた自分」について振り返る時間をとる。振り返りが早く書けた生徒は、配付した資料を読むよう促す。 | ◇新国立競技場について、設計した隈研吾や分子生物学者の福岡伸一の立場や考え方を踏まえて分析することで、内容の解釈を深めることができているか。〔読む能力〕〈行動の観察〉〈プリントの提出による記述の確認〉 |

二年次現代文プリント　―資料を根拠に新国立競技場について語る―　其の一

（　　）組（　　）番　氏名（　　）

問一　次に示すのは、新国立競技場の二つの案のイメージ図である。あなたはA案とB案のどちらが「存在としての建築」という言葉のイメージに合うと思うか。それはなぜか。

A案

（ザハ案）　省略

B案

（隈案）　省略

問二　隈研吾さんの言う「存在としての建築」とは何か。隈さんの文章からわかることをまとめよ。

問三　隈研吾さんの設計した新国立競技場は、「存在としての建築」の考え方を具現化したものであると言えるか。言えるとすればそれはなぜか。資料を基に分析、考察せよ。

〈自分の考え―担当する資料番号（　　）〉

〈エキスパートグループで話し合ったこと〉

〈ホームグループで話し合ったこと〉

〈話し合いを踏まえた自分の考え〉

二年次現代文プリント　―資料を根拠に新国立競技場について語る―　其の一の補充

（　　）組（　　）番　氏名（　　）

〈前回考えていた問い〉

問三　隈研吾さんの設計した新国立競技場は、「存在としての建築」の考え方を具現化したものであると言えるか。言えるとすればそれはなぜか。資料を基に分析、考察せよ。

←

新国立競技場の資料に「景観との調和」、「日本らしさ」とあるのは、表象ではなく存在として建築をとらえる筆者の主張に矛盾しているのではないか。

○右の意見を述べた人は、教科書本文のどこを根拠にしているのだろうか。

○この意見について、あなたはどう考えるか。本当に「矛盾している」と言っていいだろうか。

教科書本文と資料（ア）を根拠に、検討しよう。

〈問三に対する最終的な考え〉

二年次現代文プリント　―資料を根拠に新国立競技場について語る―　其の二

（　　）組（　　）番　氏名（　　）

問一　次に読むのは、評論文「動的平衡」（福岡伸一）である。なぜ次にこの文章を読むのかを、「動的平衡」という題名から予想しよう。

問二　「動的平衡」の本文を読み、予想の当否を分析しよう。

（メモ）

二年次現代文プリント　―資料を根拠に新国立競技場について語る―　其の三

（　　）組（　　）番　氏名（　　）

福岡伸一さんの主張を支える具体例として、新国立競技場を説明してみよう。

問一　福岡伸一さんの「動的平衡」の考え方のポイントを整理しておこう。

☆　他の人の意見やそれを聞いて自分が新たに考えたことなどをメモしておこう

問二　福岡伸一さんなら自分の主張を述べるときに、新国立競技場を具体例としてどう用いるだろうか。具体的に書いてみよう

☆　「二つの単元を終えた自分」について振り返り、考えたことを書こう。（二つの単元を通して、「こんなことができるようになった」、「こんなことを考えるようになった」、「こういう理由でこれが大事だと思った」、「これからこんなことを学んでいきたい」など。）